

編 集 後 記

森先生に米国幼児教育について書いていただきました。今月の「幼児教育内容の変遷をめぐって」、来月の「現在の幼児教育実践」の二回を通して、「保育を裏付けるもの」を、ご一緒に考えてみたいと思います。

*

保育学会での、津守・堀合両先生の対談を友定先生に報告していただきました。これを読んで、昭和四十年頃の堀合先生の組の「動物園」づくりにまつわるお話を、本田和子先生からスライドを見ながらお聞きしたことが思い出されました。

クジャクの羽根に、当時牛乳の蓋を覆っていた色とりどりのビニール

を使うことを思いつき、各々の家からそれを持ち寄って出来上がったという、みごとに羽根を広げたクジャク。しっぽにビッタリの材料を求めて、大学構内を散歩しながら出来上がったという、しっぽの先に黄色い銀杏のはっぱをつけたライオン。

それらのお話から、みんなが今までの体験を駆使してあれこれと案を出し合っている様子が浮かびます。そのみんなの中に先生もいる。いや、先生が、一番「一生懸命」になっている様子が彷彿として、私はうれしくなったものです。

私も母親として、子どもと共に生活する中で、「一生懸命」になり、子ども以上に楽しんでる自分に気づいてきたからです。

その楽しさが味わえないのなら、それは残念なことです。

(A)

幼児の教育

第九十四巻 第十一号

(一九九五年十一月号)

定価四五〇円(本体四三七円)

発行 平成七年十一月一日

編集兼発行人 田代 和美

発行所 日本幼稚園協会

〒112東京都文京区大塚二一〇一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108東京都港区三田五二二一

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113東京都文京区本駒込

六一四一九

☎〇三三五三九五六一六〇四

振替 〇〇一九〇一二一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレー

ベル館にお願いします。